

## だれが いつ どこで なにをした

家族や友達と一緒に楽しめる娯楽、昔は「かるた」や「トランプ」が正月の定番メニューだったが、時代が変わり今ではあまり注目を浴びなくなったようだ。一部の方々が「百人一首を子どものころから」と言っているようだが、親が興味を持たなければきっかけができないので流行るのには限界がありそうである。その昔、社内研修の中でこんなゲームをやらされたことがある。皆で作ってから遊ぶということ、簡単に作ることができるということ、人数が何人になってもできるということなど家庭内の憩いのひと時を盛り上げるのには絶好の遊びではないかと思い、孫たちが来た時に試してみたら好評だった。

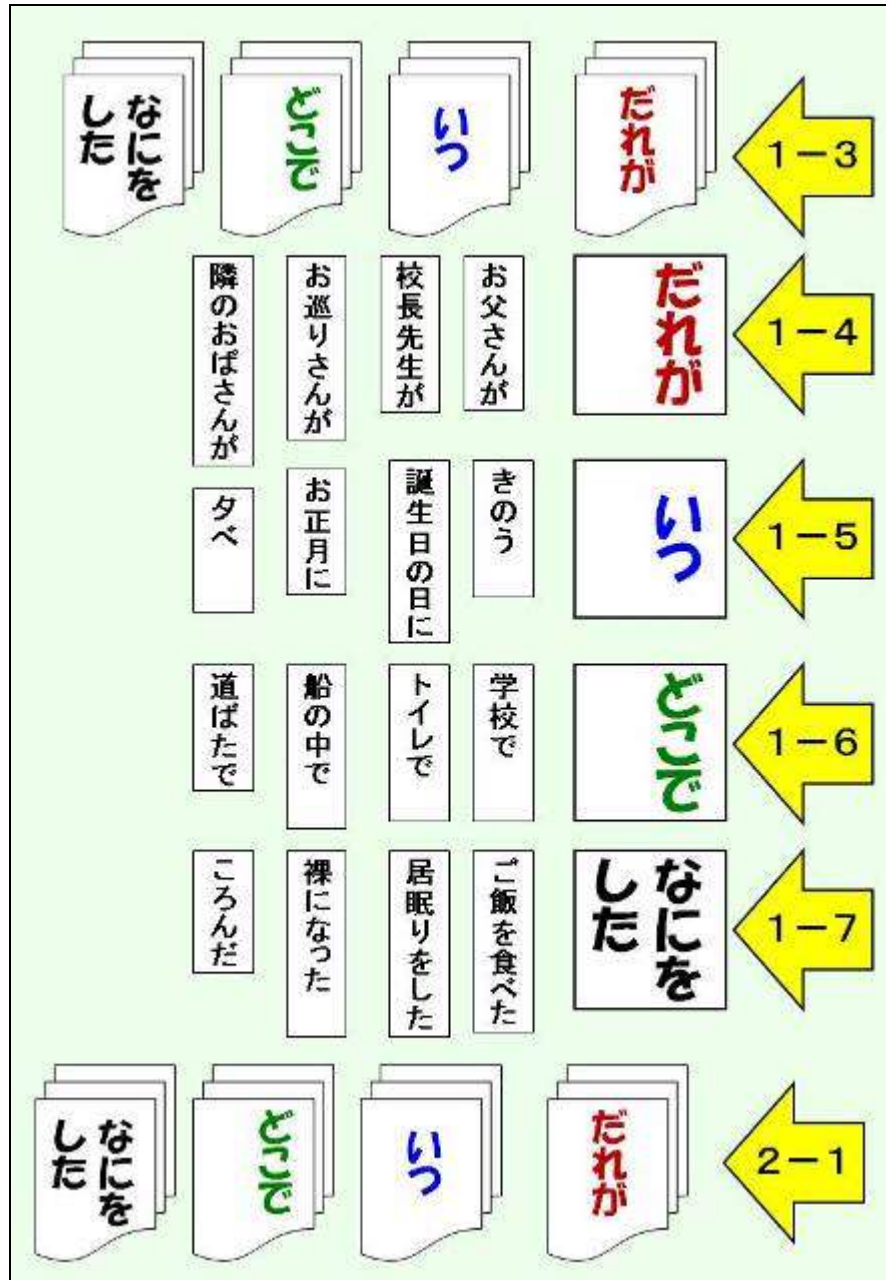
### < 1 > ゲームを作る

- 1-1 両面が無地（白紙）の紙を用意する。ない場合は広告の裏面（片面無地）でもよい。終ってしまった月めくりカレンダーなど最適。
- 1-2 はさみやナイフで切って、トランプ位の大きさのカードを沢山作る。（サイズは自由）枚数にも決まりはないが、多ければ多いほど面白くなるので途中で追加しても良い。
- 1-3 カードを四等分して、それぞれの片面に大きな文字で書く  
第一グループのカードには「だれが」  
第二グループのカードには「いつ」  
第三グループのカードには「どこで」  
第四グループのカードには「なにをした」と書く
- 1-4 第一グループのカードの裏面を作る（皆で手分けして書く）  
「だれが」のカードの裏面に  
「お父さんが」「校長先生が」「おまわりさんが」など主語になる言葉を書く。  
同じものが複数枚できないように、お互いに見せあいながら書く。
- 1-5 第二グループのカードの裏面を作る  
「いつ」のカードの裏面に  
「昨日」「お正月に」「誕生日の日に」「夕べ」など時をあらわす言葉を書く。
- 1-6 第三グループのカードの裏面を作る  
「どこで」のカードの裏面に  
「学校で」「トイレで」「船の中で」「道ばたで」など場所をあらわす言葉を書く。
- 1-7 第四グループのカードの裏面を作る  
「なにをした」のカードの裏面に  
「ご飯を食べた」「居眠りをした」「ころんだ」「裸になった」など行為をあらわす言葉を書く  
これで作る作業は終了。どのグループも同じ枚数になるように作る。

### < 2 > ゲームを楽しむ

- 2-1 それぞれのグループのカードは、トランプを切るように良く混ぜてテーブルに裏返しに置く。  
「だれが」「いつ」「どこで」「なにをした」の四つのカードの山ができる。
- 2-2 じゃんけん等で順番を決めて、四つの山から一枚ずつカードをとる。  
カードをとった人は、そのカードの内容を大きな声で読み上げる。  
「校長先生が」「夕べ」「道ばたで」「裸になった」  
と言う思いがけぬ組み合わせに出会うのが面白い。
- 2-3 順に続けて行く

- 2-4 カードの山がなくなったら再びカードを四つに分けて、よく混ぜて「だれが」「いつ」「どこで」「なにをした」の四つのカードの山を作る。一巡したところで、新しいカードを作って追加すると一層の面白さになる。



<3> このゲームの面白さ

- 3-1 勝負ではないので、勝った負けたではなく皆と一緒に笑うことができる。
- 3-2 遊びながら、結果的には学ぶことにもなるという理想的な遊びである。
- ① 5W1H という文章や言語表現の基本事項を体得できることで、コミュニケーションの基本事項を学ぶことができる。
  - ② 遊ぶものを自分で作るという体験ができる。
  - ③ 声を出して皆に聞こえるように読むことに慣れることができる。
  - ④ 他の人が読むのをしっかり聞くという習慣が身につく。
  - ⑤ 老若男女入り混じって、共に作り・共に遊び・共に笑うことができる。

今や5W1H が不明瞭なコミュニケーションが横行している大人の世界、子ども達と一緒に遊びながら原点回帰を図ったらいかがかな？